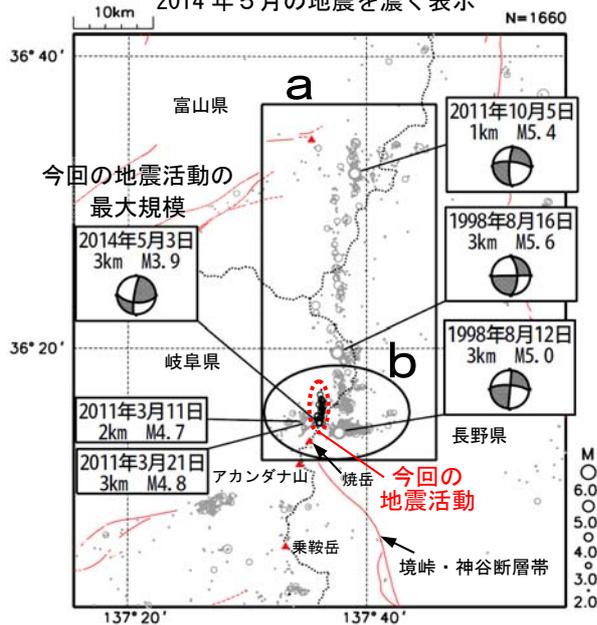


# 5月3日からの岐阜県飛騨地方から長野県中部にかけての地震活動

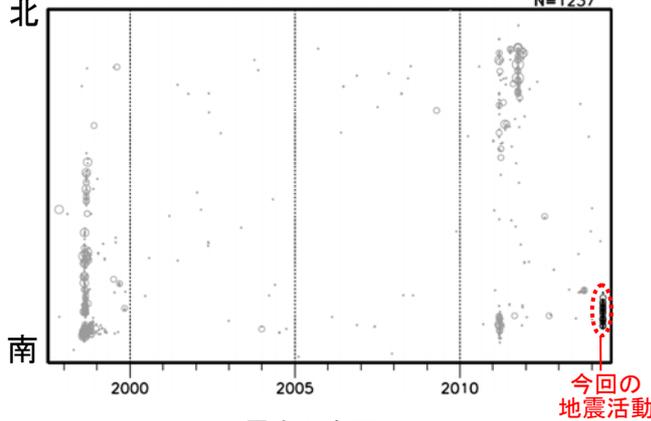
(岐阜・長野県境の地震活動)

震央分布図

(1997年10月1日～2014年5月10日、  
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$ )  
2014年5月の地震を濃く表示

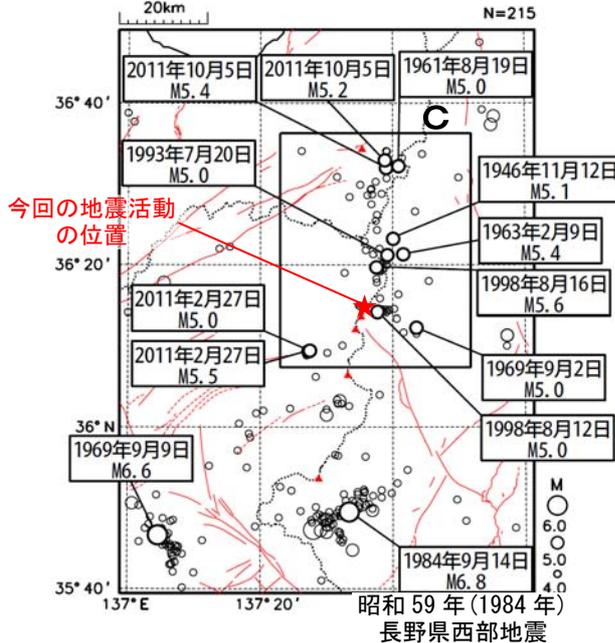


領域a内の時空間分布図 (南北投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2014年5月10日、  
深さ0～50km、 $M \geq 4.0$ )

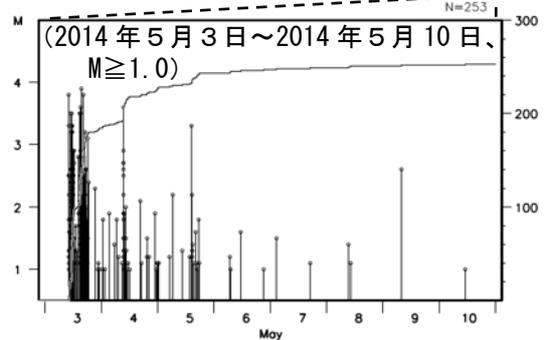
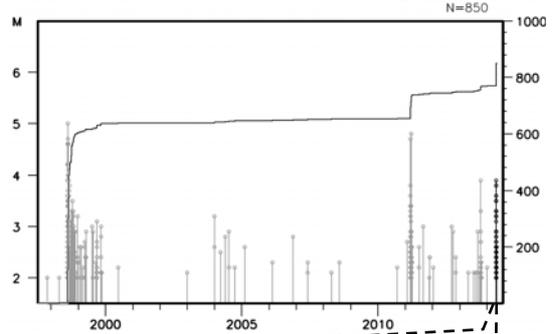


2014年5月3日10時頃から、岐阜県飛騨地方から長野県中部にかけて (岐阜・長野県境)、地殻内を震源とする地震活動が活発となり、震度1以上を観測する地震が44回発生した (12日10時現在、最大震度3:9回、最大震度2:8回、最大震度1:27回)。この活動は6日以降収まりつつある。12日10時までの最大規模の地震は、3日15時26分に深さ3kmで発生したM3.9の地震 (最大震度3) である。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

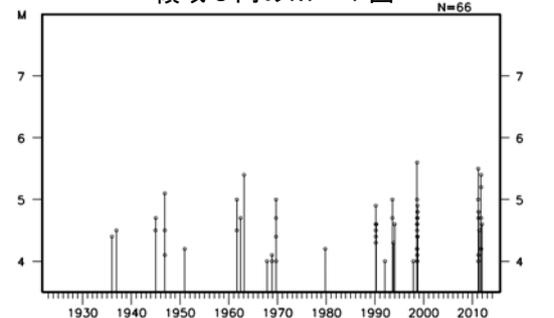
1997年10月以降の活動をみると、今回の活動の周辺 (領域a) では、1998年8月～10月 (長野・岐阜県境、最大震度5弱)、2011年3月 (岐阜県飛騨地方、最大震度4)、2011年10月 (富山県東部、最大震度4) にまとまった活動があった。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M5クラスの地震が時々発生している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



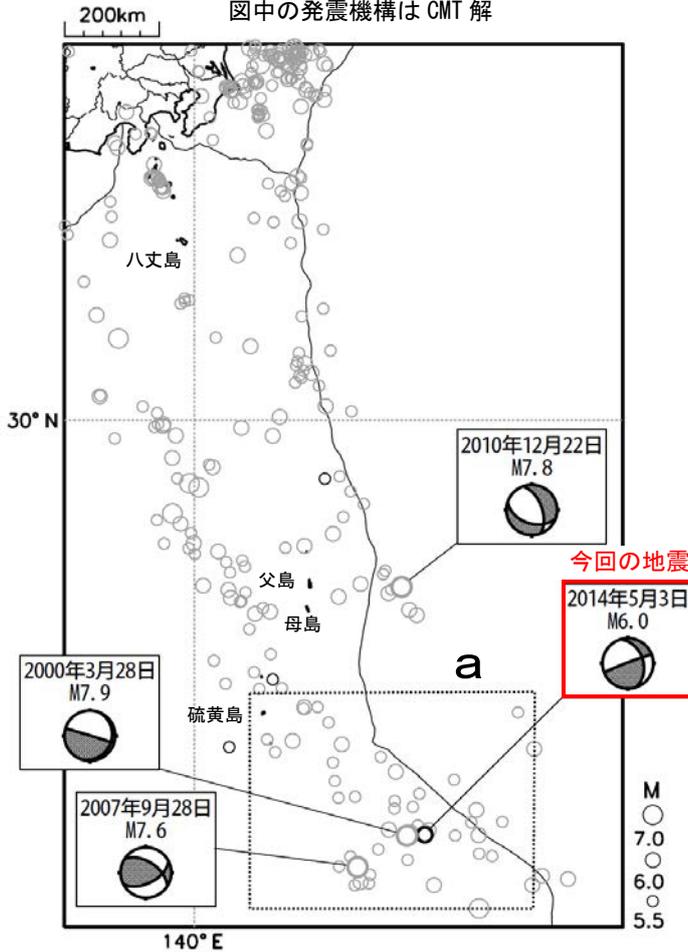
領域c内のM-T図



# 5月3日 硫黄島近海の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2014年5月3日、  
深さ0～700km、 $M \geq 5.5$ )  
2014年1月以降の地震を濃く表示  
図中の発震機構はCMT解

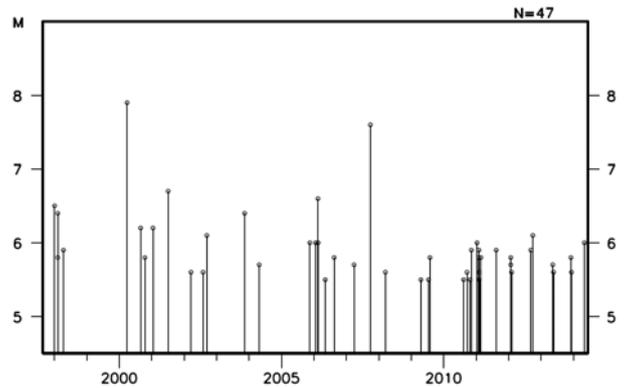


2014年5月3日19時57分に硫黄島近海の深さ107kmでM6.0の地震(最大震度2)が発生した。この地震は発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ型で、沈み込む太平洋プレート内部で発生した地震である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域a)では、M7.0を超える地震が2000年3月28日(M7.9、最大震度3)と2007年9月28日(M7.6、最大震度2)に発生している。

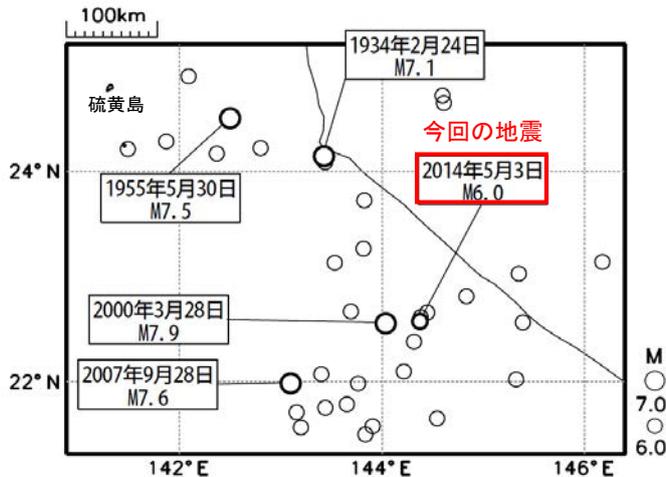
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺では、M7.0以上の地震が時々発生している。

領域a内のM-T図

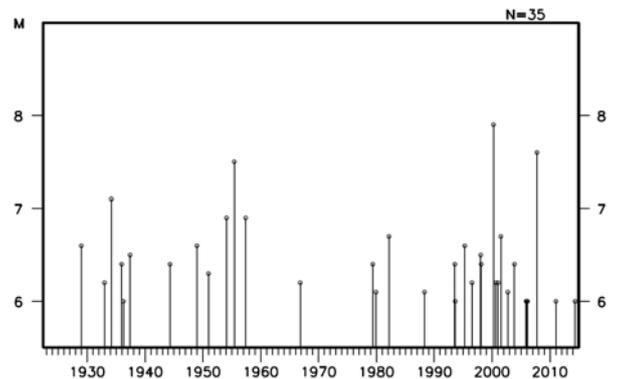


震央分布図\*

(1923年1月1日～2014年5月3日、  
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$ )  
※上図の領域a内における震央を表示している



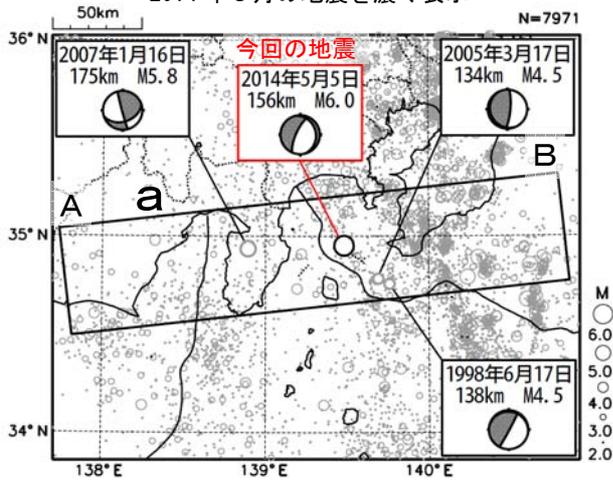
左図の領域のM-T図



# 5月5日 伊豆大島近海の地震

震央分布図

(1997年10月1日~2014年5月6日、  
深さ50~300km、 $M \geq 2.0$ )  
2014年5月の地震を濃く表示

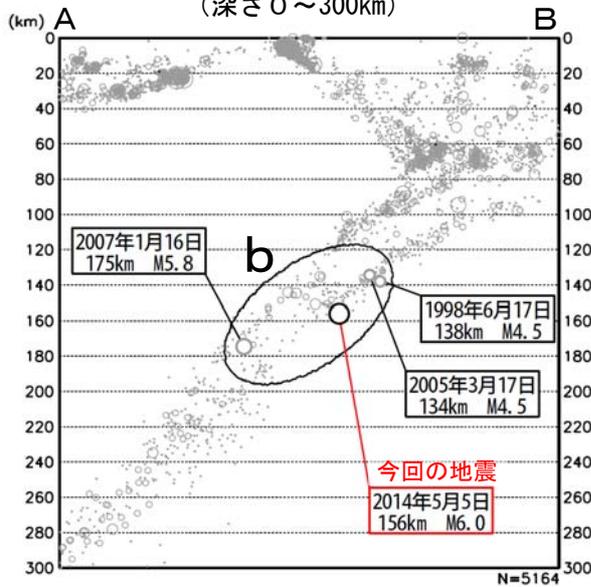


2014年5月5日05時18分に伊豆大島近海の深さ156kmでM6.0の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型である。この地震により、東京都や神奈川県などで負傷者15人の被害が生じた(総務省消防庁による)。

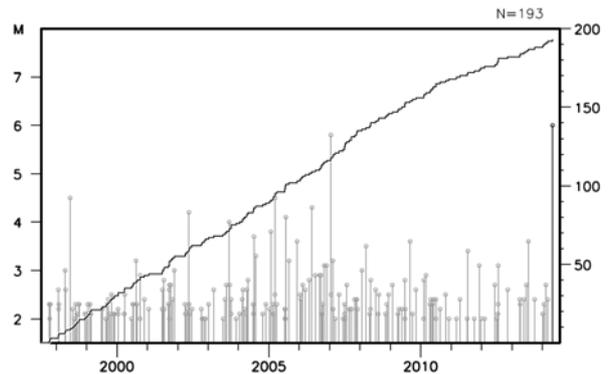
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)は、2007年1月16日のM5.8(最大震度3)など、M4.0以上の地震が時々発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M5.0以上の地震が時々発生している。

領域a内の断面図 (A-B投影)  
(深さ0~300km)

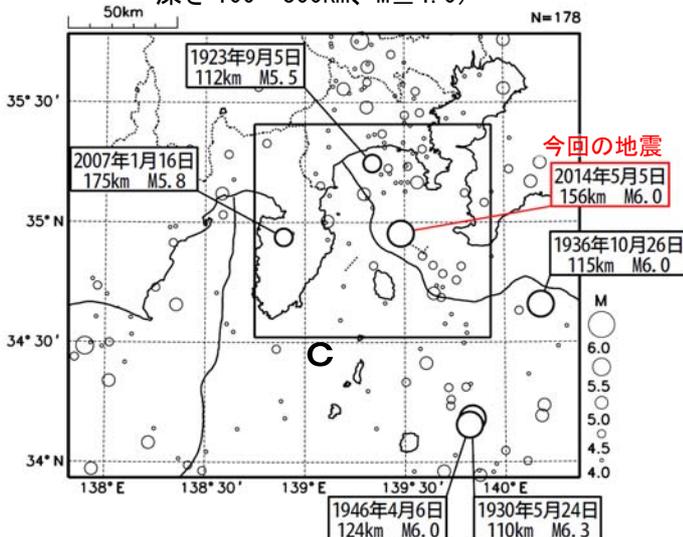


領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1923年1月1日~2014年5月6日、  
深さ100~300km、 $M \geq 4.0$ )



領域c内のM-T図

